

古の日の法廷

あなたは独房に座り、独りで、恐れを抱きながら、なお現実を理解しようともがいている。何十年もの間、あなたは権力を握ってきた——軍を指揮し、核の炎をその影に保持し、大統領や議会をあなたの意志に従わせてきた。今、石の壁の沈黙がどんな軍隊よりも重くのしかかる。初めて、あなたは無力だ。

ドアが開き、私が入る。あなたは疑わしげに、緊張した様子で私を見る。憎しみや暴力が来ることを予想しているのかもしれない。しかし、私はあなたが予想もしなかった言葉を告げる：

「恐れなさい、だが私を恐れるのではない。私はあなたの処刑者として来たのではない。あなたを待つ裁判を恐れなさい。法廷の裁き、ユダヤの民、諸国、歴史そのものの裁きを恐れなさい。そして何よりも、死後にあなたを待つものを恐れなさい。」

諸国の裁判

あなたは法廷に座るだろう、リーダーとしてではなく、被告として。ガラスの向こうで、縮こまり、舞台を支配する力を持たず。あなたのプロパガンダを増幅するマイクも、あなたの嘘を形作るカメラもない。証人たちを黙らせることはできない。

最初は父親だ。彼は新生児の双子の出生証明書を取りに行った時のことを語る。喜びに満ちた手で出かけたが、戻った先は瓦礫の山——妻と子とその下に埋もれていた。彼の声は震えるだろうが、真実は震えない。

次に子たちが語る。両親や兄弟だけでなく、身を守ってくれていた壁までも失った孤児たち。彼らは最後の避難所だった孤児院が灰燼に帰したことを語る。か弱くとも折れない彼らの声が証言となる。

あなたは無力に座り、彼らの言葉が沈黙を突き破るのを聞く。どんな軍隊も彼らの声を掻き消せない。どんな編集者も彼らの言葉を切り取れない。そして、判事の槌が下ると、判決があなたを封じる。

法廷はあなたを有罪とする。諸国はあなたに背を向ける。シナゴグでは、ユダヤの人々があなたの救済ではなく、赦しを祈るだろう——あなたの言葉に騙されたことへの赦し、命の契約を冒涇させたことへの赦し。そして、歴史はあなたを、ヒトラーがそうであったように、時代の悪役として烙印を押す。

あなたは残りの人生を独房で過ごし、死を恐れながら待つ。そしてその日がついに来るとき、裁判は終わるところか——始まるだけだ。なぜなら、その時あなたは古の日の法廷の前に立つからだ。

古の日の法廷

あなたはより偉大な法廷、永遠の法廷に引き出される。ダニエルはそれを遠い昔に見た：「**私が目を上げると、玉座が置かれ、古の日の者が座に就いた。その衣は雪のように白く、頭の髪は純粋な羊毛のようだった。その玉座は燃える炎、その車輪は燃える火。火の川が流れ、彼の前から出ていた。幾千もの者が彼に仕え、幾万もの者が彼の前に立った。法廷が裁きのために座し、書物が開かれた**」（ダニエル 7:9-10）。

あなたはこの燃え盛る炎の玉座の前に立つ。天使たちが列をなし、あなたの行いの書物を持つ姿を見る。書物が開かれ、何も隠されることはない。

あなたが黙らせた証人たちが立ち上がる。飢えた家族のために食料を探しに行ったときに殺された父親があなたに対して語る。シャアバン・アル・ダルーが病院のベッドから立ち上がり、生きたまま焼かれ、腕にまだ点滴の針を刺したまま証言する。そして、名も知れず忘れ去られた大勢の人々が、海の如く咆哮し、その血はかつてアベルの血がしたように叫ぶ。

判決が近づくと、あなたはいつものように振る舞おうとするだろう。地上では、国際刑事裁判所があなたを追及したとき、それを反ユダヤ主義だと非難した。天では、神さえも同じ罪で非難するだろう——もしあなたの舌が自由なら。

だが、あなたの舌はあなたを救わない。「**その日、われわれは彼らの口を封じるが、彼らの手はわれわれに語り、彼らの足は彼らが得たものを証言する**」（ヤシン 36:65）。あなたの舌は黙する。あなたの手は署名した命令を告白する。あなたの足はあなたを運んだ道を証言する。あなたの皮膚さえもあなたに逆らう。あなたは非難によってではなく、真実によって——あなた自身の体そのものによって——有罪とされる。

判決が下される。あなたは契約から切り離される。賢者たちは言った：「**すべてのイスラエルは来世に与る…ただし、そこに与らない者たちがいる。律法を否定する者、復活を否定する者、公共を罪に導く者たちだ**」（サンヘドリン 90a）。ゲヒノムは弱者のためのものだ。つまり、まだ清められる可能性がある者たち。だが、あなたは神の名を冒涇した。それは弱さではなく、反逆だ。そして反逆には与る部分はない。ユダヤ教を代表するというあなたの主張は、神自身によって剥奪される。

そして、判決が執行される。コーランは警告する：「**死はあらゆる方角からあなたに訪れるが、あなたは死なない。そしてあなたの前には容赦ない苦しみが待っている**」（イブラヒム 14:17）。

そして、黙示録がそれを裏付ける：「**彼らを欺いた悪魔は、獣と偽預言者がいた火と硫黄の湖に投げ込まれ、彼らは昼も夜も永遠に苦しめられる**」（黙示録 20:10）。

あなたはその硫黄の湖に投げ込まれる——消費せず罰する火、終わりのなき苦しみ。あなたは死を乞うだろうが、死は訪れない。

独房への帰還

私はドアの方へ向き、声を下げて最後の警告を告げる。

「だから恐れなさい、私をではなく、これを。黙らせられない裁判を恐れなさい。書き換えられない歴史を恐れなさい。逃れられない永遠を恐れなさい。真実そのものを恐れなさい。」

ドアが私の後ろで閉まる。

そして再び、あなたは独房に座る。沈黙はこれまで以上に重い。人生で初めて、涙があなたの顔を伝う。あなたは静かに泣く——そして誰もあなたを慰める者はいない。